

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2016.8.30 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2016年8月30日現在で68株です。昨年同時期の検出数106株と比較して減少しています。感染者の内訳で見ると下痢・腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が45株(66.2%)、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が23株(33.8%)でした。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから注意が必要です。分離されている血清型を表に示しました。O血清型で見ると例年通りO157が47株(69.1%)と最も多く、次いでO26が13株(19.1%)分離され、この2つの血清型で全体の90%弱を占めていました。その一方で、市販抗血清で型別ができなかった株が2株ありました。国立感染症研究所での同定により1株はO76:H19と型別されましたが、残りの1株は型別不能(O:UT:H-)でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2016.8.30 現在)

	VT1&2	VT2	VT1	総計
O157:H7	20	17		37
O157:H-	5	1		6
O157:H検査中	2	2		4
O26:H11			12	12
O26:H検査中			1	1
O76:H19			1	1
O111:H-	1		2	3
O121:H19	1	1		2
O128:H2			1	1
O:UT:H-		1		1
総計	29	22	17	68

UT: 型別不能

- : 運動性なし

衛生研究所では、PFGE(pulsed-field gel electrophoresis)法やMLVA(Multi Locus Variable number tandem repeat Analysis)法による遺伝子型別を行っていますが、集団感染事例や家族内感染での集積以外に、異なる保健所管内での分離株が同一型を示す例があり、共通感染源の可能性も考えられますので、注意していく必要があります。今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。